



2007年5月31日

ロールス・ロイス CEO、サー・ジョン・ローズ  
航空宇宙分野における英国と日本のコラボレーションの重要性を強調

【英国 2007年5月31日】民間航空、防衛航空、船舶、エネルギー各分野の世界市場において事業展開するロールス・ロイス社（本社：英国ロンドン、CEO：サー・ジョン・ローズ、以下「ロールス・ロイス」）のCEO、サー・ジョン・ローズは、本日、東京で開催された「日英航空宇宙産業会議 2007」開会の基調講演において、航空宇宙産業は、日英両国の協力関係によって様々な成果を生み出してきた歴史があり、両国の経済にとって重要な付加価値産業であると述べました。

サー・ローズは「日本と英国は、個々にではなくむしろ提携することにより、よりはるかに効果的に世界規模の課題に取り組むことができると思います。お互いが情報交換し、総合能力・研究を検討すれば、新たな協同事業の可能性を発見することができると思います」と述べました。

ロールス・ロイスの日本との協同事業の中でも最大規模の成功例として挙げられるのは、全日本空輸（ANA）との Trent 1000 エンジン開発プログラムです。同エンジンは、ANA が 2008 年に商用就航に投入するボーイング社製 B787 型機ドリームライナー向けエンジンです。また、Trent エンジンには、川崎重工業（KHI）、三菱重工業（MHI）、石川島播磨重工業（IHI）、住友精密工業が中核企業として参画しており、現在、数千人もの日本人エンジニアおよび製造分野のスペシャリストが Trent プログラムに携わっています。

「日本と英国は高度な経済力を背景に、高付加価値創造活動に注力するという共通の戦略的ビジョンを持っています。このことは、両国にとって競争がますます激化する世界経済の中で強みでありさらなる成功をもたらす要因となるのです。」とサー・ローズは述べました。

本日、地球の反対に位置する両国を中心とした会議が開催されたことは、世界経済のグローバル化が進んでいることの証です。情報交換の伝達方法が進化した結果、物理的な距離は障害にならなくなりました。こうした背景から、事業の推進方法として協同事業体制が受け入れられてきたのです。」と、サー・ローズは述べました。

2006年、ロールス・ロイスは、エンジンの燃料効率と環境性能を向上させるために、日本の物質・材料研究機構（NIMS）が開発した最新の超耐熱合金について、共同研究・商業化を推進するという合意に達しました。この NIMS との合意により、航空宇宙向け先端材料開発のための卓越した研究拠点として『ロールス・ロイス航空宇宙材料センター』が開設されました。

「ロールス・ロイスは、今後も日本との協同事業を伸展させ、グローバルな課題に取り組んでいきたいと考えています。」とサー・ローズは述べました。

以上